



好学愛知  
自律敬愛  
質実剛健

# 鶴丸イ言

## 5月の行事予定

月	日	曜日	行事等	校時	時間別変更等	学食
5	1	月	教育相談①	45分	木曜授業	○
5	2	火	実力考査時間前発表	40分		○
5	3	水	憲法記念日			×
5	4	木	みどりの日			×
5	5	金	こどもの日			×
5	6	土	進研記述(3年)			×
5	7	日	進研記述(3年)			×
5	8	月	全校朝会②	5分進		○
5	9	火	避難訓練(放課後)	40分		○
5	10	水	学校安全の日			○
5	11	木	3年実力考査(1日目)PTA総会	3年考査40分		×
5	12	金	3年実力考査(2日目)進研引継会	3年考査		○
5	13	土				×
5	14	日				×
5	15	月	学年朝会② 教育実習開始(～5/26、6/2)集団読書(2年)	5分進		○
5	16	火	【教育実習期間:控室一研修室②使用】SC来校(見学生 13:30～17:30)			○
5	17	水	【教育実習期間:控室一研修室②使用】立会演説・生徒総会	45分	2限カット	○
5	18	木	【教育実習期間:控室一研修室②使用】PTA総会欠席者会 眼科検診(全学年13:30～)			○
5	19	金	【教育実習期間:控室一研修室②使用】進研引継会 ストレスマネジメント(11,12R 6限 13,14R 7限)			○
5	20	土				×
5	21	日				×
5	22	月	【教育実習期間:控室一研修室②使用】学校楽しい～と・集団読書(3年)			○
5	23	火	【教育実習期間:控室一研修室②使用】			○
5	24	水	【教育実習期間:控室一研修室②使用】交通安全教室 検閲二次			○
5	25	木	【教育実習期間:控室一研修室②使用】検閲二次 SC来校(大島先生 13:30～16:30)			○
5	26	金	【教育実習期間:控室一研修室②使用】中掃除 進研引継会 3年総合模試 ストレスマネジメント(15,16R 6限 16,17R 7限)	午後10分進		○
5	27	土	3年総合模試 バスケットボール総体本校会場			×
5	28	日	第1回実用英語検定(一次)バスケットボール総体本校会場			×
5	29	月	【教育実習期間:控室一研修室②使用】中間考査時間前発表			○
5	30	火	【教育実習期間:控室一研修室②使用】			○
5	31	水	【教育実習期間:控室一研修室②使用】			○

↑発行時の予定です。変更にご注意してください。

## 学び続けること

校長 前田 光久

何のために勉強するのか。この問いに何と答えるか。中学生はその出口で待ち受ける高校入試に備えるために、そして、高校生の今は来たるべき大学入試をクリアするために勉強する。と、大方の生徒は言うだろう。確かに各授業(特に共通テストで課される科目)は、正解に辿り着くための知識や解法を学ぶ場でもあり、大学入試というハードルがある以上それを超えるための準備は不可欠である。

しかしながら一方で、「我々は一生学び続けなければならない」とも言われる。それはなぜか。賢明な皆さんはもうお気づきだろうが、不透明と言われる現代社会を生きていくには、日々正解の無い課題に向き合う中では、日々正解の無い課題に向き合う中でいかにして最適解を見つけていくかが鍵であり、その作業は、それまでに培った「学び」を基に、他人に左右されずに自らの判断によって主体的に行われるべきものだからだ。高校での「学び」はそのためにこそあり、入試という人生の一時期のためだけにあってはならない。こうして皆さんにとつての「学び」は生涯続くこととなる。

五年後や十年後、現れたハードルを前にそれまで身につけた知識や技能をどう活かすのか、既得分では足りない場合不足分をどう獲得するのか、そのための意欲はどうやって保つのか、といった課題が生じる。それらをクリアするためには、今現在の高校生活のあらゆる面で、我々は「学び方を学ぶ」ことを意識すべきであり、そこにこそ「学び」意義はある。

「学び方を学ぶ」という意味では、知識習得型の教科学習よりもむしろ「総合的な探究の時間」で身につける課題解決へのアプローチ法とか、部活動での目標達成に向けた様々なルーティンの中にその姿を見ることができ。例えば「探究」においては、教科学習で得られた様々な知識を総動員することで仮説の検証方法を見出したり、部活動であれば、一見記録向上に直結するとは思えない単純なトレーニングこそがその後の伸びに繋がることを実感したりする。このような体験の積み重ねこそが「学び方を学ぶ」ことであり、高校生にとつて、多くの新しい知識を得ることと同様あるいはそれ以上に求められていることのように感じる。

このことは我々大人にも全く当てはまる。社会人として働く時間が長くなればなるほどそれまでに身につけた発想や仕事のやり方から離れにくくなり、環境の変化や時代の流れに合わせて自らを変化することに抵抗を感じがちになる。天下泰平の世ならいざ知らず、これほどまでに変化の激しい現代にあつては、自らのガラパゴス化を避けるためにもこれまでに身につけた「学び方」をリニューアルすることは必須である。

鶴丸生が「かへらざる三年」を意識する中で常に「学び方を学ぶ」姿勢を保つ一方、教師もまた生徒の期待に応えるべく自らの変革を厭わずに挑戦を重ねる。生徒・職員が一体となつて自らを鼓舞しつつ、高みを目指して進む。本校が「学び続ける」学校であり続けることを願う。

第七十七期生の入学式が挙行されてからまだ一ヶ月も経っていませんが、学校生活に慣れたでしょうか。新しい環境のもとで、新しい友だちと出会い、新しい生活が始まって徐々にペースもつかめてきた人も多々思っています。少し慣れてきた所で今一度、鶴丸高

## 初心を更新する

一学年主任 富松 一

二つ目は、受け身にならないことです。鶴丸が君たちに要求するレベルは、学習面、精神面ともに高いです。そのような中で、受け身にならないということは難しいことです。学習面を例に出すと、日々の予習だけで一杯。とてもそれ以外のことに取り組む時間など確保できないという状況です。しかし、

その「この日にやらなければ間に合わない」を受け身の状態だと、自分のペースで取り組むことができません。精神的にもきついですし、効率も下がります。だからそれを逆にします。先ほどの例でいうならば、日々の予習を前日に行うようにしてしまふ。土日など余裕のある時間

に先を見通して進めてしまふ。そうすることで、「やらなければならない」から「やっておこう」になります。この状態になると、精神的にも余裕ができるし、効率も上がります。しかし、この受け身にならない状態を作り出すためには、少し努力が必要です。大まかな計画と、それを実行するための時間の確保を考えてみてください。

最後の三つ目は、自分のできる範囲で一步踏み出すことです。今年一年を通していろいろなことに積極的に触れて体験してほしいです。そのためには、与えられたもので満足せず、一歩踏み出してほしい。そうした体験から、自分のやりたいことを見つけて進路目標の明確化と覚悟を固めてほしいと思います。以上三つは視点を変えて同じようなことを挙げただけです。君たちのこれからの生活の参考になればいいと思います。これから君たちの過ごす三年間は楽しいことだけでは無いと思います。しかし、周りにはいろいろな秀でた能力・考え方を持った友人がいます。そのような環境で過ごす三年間は、これまで体験したことのない刺激を得られると思います。お互いを尊重し刺激を与えあいながら、充実した鶴丸での生活を過ごすことを期待します。

二つ目は、受け身にならないことです。鶴丸が君たちに要求するレベルは、学習面、精神面ともに高いです。そのような中で、受け身にならないということは難しいことです。学習面を例に出すと、日々の予習だけで一杯。とてもそれ以外のことに取り組む時間など確保できないという状況です。しかし、

二つ目は、受け身にならないことです。鶴丸が君たちに要求するレベルは、学習面、精神面ともに高いです。そのような中で、受け身にならないということは難しいことです。学習面を例に出すと、日々の予習だけで一杯。とてもそれ以外のことに取り組む時間など確保できないという状況です。しかし、



令和5年4月20日(木) 於県立鶴丸球場

## 創立記念式典・講演会

四月十九日(水)、創立記念式典、記念講演会が開催されました。講演会では、本校四十五回生の松山剛士氏(国際協力機構(JICA)企画部イノベーション・SDGs推進室長)から「国際協力の仕事」と題し、講演していただきました。日本の国際協力の一例として、エジプトで日本式教育が実施されていること、国際協力の仕事が生きて、人類共通の課題を解決するやりがいのある仕事であること、好きなことをやる延長上に大学での学びや仕事があることなど、貴重なお話を賜りました。



## 甲鶴戦

四月二十日(木)、第五十三回甲南・鶴丸スポーツ交歓会が開催されました。事前には雨天が心配されましたが、ありがたいことに、一転して好天に恵まれました。結果は七対十で惜しくも敗れたものの、午後は野球の全校応援で全校生徒・職員一丸となつて大いに盛り上がりました。

